



発行所:ほかにわ共和国  
発行責任者:志賀 俊紀  
編集責任者:ほかにわ広報部

### 癒しのある日常考

今年度の表紙のテーマは、「喜び」と「癒し」です。施設は「何ができるか」「何を求められているか」「豊かな生活の実現に向けた取り組みとは何か

癒しとは心が穏やかな状態や安らぐ状態であり、感じ方は人それぞれである。自分自身の内面から癒される場合と、周りの環境要因から癒されるなど多岐にわたると思われま



この笑顔を見ると職員も癒される



志賀理事長により、法人の基本方針の一つであるこの言葉が各事業所に配られた。この言葉の真意は、核家族で分散している現代、人の絆が無くなつてしまった反省から、血の繋がりが無くても、一生涯繋がっていかけるという、惟神（かむながら）、神道の心である。あらゆる恵みの中で自分が生かされている事を神様に感謝するという神道の理念から創り出された造語であるが、「新しい家族」「新しい障観」のキーワードである。



ている立場として、日頃の状態を観察しながら、その人が心穏やかに笑顔で過ごす姿を見れば、支援する側としても安心しますが、情緒不安定な言動をする場合は心配になることもしばしばです。そんな時は、その人が好きなことや興味を持つようなことを提供するために、あの手の手と模索する場面がでてきます。

勿論一人では限界があり、事業所内の職員間で相談をする場合もでてきます。その時に、これで良いかと妥協するのではなく、その人の思いに重ねて、笑顔になる利用者の姿を、導き安堵することもしばしばです。改めて癒しを考える時、「癒しとは人と人とのコミュニケーションが重要な要素であり、利用者に癒しを提供するのではなく、感じてもらえるよう、私たち自身が心掛けるものである。」と考えます。

悠炉里施設長 志賀 常盤

### ありがとうの波及効果

■皆さんは日常生活の中で「ありがとう」という言葉をどういった場面でもらうと嬉しいですか。大半は、自分が認められ、人から感謝された時にでもらうと、大きな充実感と喜びを感じます。■ありがとうの語源は「有り難い」になり「有る」ことが「難しい」と書きます。「あり得ない」ようなことが起こった事への感謝の言葉とされています。■日常生活で、意識的に、些細な事でも「ありがとう」を使うようにすると、気分が良くなり、良い事を引き寄せます。明るいエネルギーで、身の回りのことも良くなっていきます。それはまた、落ち込んだ時や悩んでいる時にこそ実行すると状況が良い方向に変わります。そして気持ちが穏やかになれば、心の中に「ゆとり」も生まれます。すると、他人にも思いやりの気持ちで接することができます。■心にゆとりを持ち利用者に接することで、より良いサービスが提供できます。ありがとうという言葉は、このような波及効果をもたらしてくれます。■一人ひとりの些細な行いで皆が幸せになって感謝の輪が広がり、人が繋がっていきます。この記事を読んでくださった皆

### ふたりで共に導きあい



寺田次男さんと松枝さん

兄と妹、同じグループホームで生活し、日中も同じ事業所で作業をしている寺田兄妹。お互いの存在はどういう影響を与え、どうプラスに働いているのか尋ねました。二人はリュンヌ アン ブラッセで箱折り作業をしています。お互いがお互いを補い合い、それぞれを感じます。次男さんは妹が困っている時にはしっかりと導き、松枝さんは兄が不便に思っていると自分ができる限りの事をサポートし助けています。これからも、兄妹仲良くしてくださいね。



さんに、感謝の気持ちを込めて「有り難いです」  
悠炉里指導主事大場康生

質問ー兄妹一緒によかったと思うときはどんな時ですか。  
次男さん 一人だと寂しいので、会話できるのはよかったです。  
松枝さん 兄を助けることができるのでうれしい。  
質問ーお互いの良いところを教えてください。  
次男さん (足が悪く)痛い時は補助をしてくれる為助かっている。  
松枝さん しっかりと守ってくれます。



# 特集

## 社は癒しの源泉

メモリアルホール奥津城

理事長 志賀 俊紀



奥津城は神道系の御魂の癒しの場所である。元来、神社は森と人里の境界線の里山に鎮座していた。十年前の東日本地震災害で津波の犠牲になった人は計り知れないほどであるが、一方では、昔の言い伝えをまもり近くの小高い鎮守の森に逃げ込み一命を守った人も数多くあると聞く。この度、ほかにわ共和国では、癒しの森の建設を画った。それは、家族のお墓に帰れない人たちの心の拠り所「メモリアルホール奥津城」の建設と周辺の公園化である。杉の丸太で作られた野外音楽堂、神社前の東屋の改修、そして、本格的鳥居の建立である。しかも、石段は、苔の鳥居から、式の鳥居(木製)まで二組あり、左手に「手水舎」右手に「奥津城」である。石段は、木製石組み十五段計四十五段で神殿に辿りつく。

参道は、沖繩本部にある世界遺産今帰仁城の天守閣に続く「七・五・三」のサンゴの石段がモデルである。この石段は、独創的なほかにわな石段であるが、八雲寮本館玄関前にも設置されている。二十六年、老朽改築の時に、路傍の石にヒントを得て、人は誰も一つは良い顔を持っているという信念でモニュメント化したのである。



3月メモリアルホール落成式と法要が執り行われた



## ほかにわ共和国の動き

- 4月1日 辞令交付式
  - 4月下旬 法人内交流スポーツ大会
  - 5月下旬 監事監査
  - 6月上旬 理事会
  - 6月中旬 評議員選任・解任委員会
  - 6月下旬 理事会・評議員会
- ※上記は予定のため変更になる場合があります

昔の写真を多く見る機会があつて眺めていると、毎年、同じ時期に同じ行事をずっと何年も続けていることに気づく。

利用者、とりわけ施設入所の方は生活を通して季節を感じる機会や一般家庭で行う年中行事に参加する機会が少なく、家庭的な雰囲気や四季の移ろいを実感できるようにとの考えがあるのだと思う。

現在は一般家庭でも年中行事を行うことは少なくなってきたが、施設では端午、七夕、餅つき、節分など季節ごとの伝統的な行事はもちろん、ハロウィンのような新しく定着しつつある行事も行っている。

古いものは年々少しずつ形をかえながらもずっと引き継いで行われており、写真を順番に眺めているだけでも感慨深い。

## 令和3年度 辞令交付式

4月1日、例年通り辞令交付式が行われ、令和3年度が始まった。

式は昨年度と同様コロナ禍のため、感染予防策をとったうえで規模を縮小して行われた。

辞令交付の後の近藤理事からの訓示では、事業の成功は従事者の智恵、工夫、努力にかかっている。利用者が輝けるようにすることが保護者や職員が輝くことにもつながる、という話があり、職員それぞれが新しい気持ちを胸に新年度のスタートに臨んだ。



「花見」約40年前(上)と現在(下)

昨年度は新型コロナウイルス感染症予防のために外出を伴う行事をほとんど行うことができなかった。デイ雲ではそんな中で季節を感じられるようにと月ごとにテーマを設け創作を行ったり、その季節「らしい」行事を工夫して行ったりした。

しかし、実際に自然に手で触れたり、肌身で感じたりする機会は限られており難しい部分もある。

自粛と工夫を求められる日々がまだ続きそうだ。

(デイ雲 福田・小山)

## 売りたいか. なう@

昭和61年から続いている八雲寮の「びっくり箱」。今年で34年を迎えました。八雲寮では、3月から玉ねぎの収穫が始まり、じゃがいも、にんにくと一番忙しい時期を迎えています。他にも島原半島特産物の詰め合わせを準備しています。

贈り物にも喜ばれる一品です。ご注文宜しくお願ひします。



## マイフォーム

## マイコレクション

私は中学生の頃から海釣りにはまり、現在も休みの日には海に出ています。最近、ゴムボートで海に出ることもあります。アラカブ、ベラがほとんどですが、釣れない時はエサや道具を変えながらどうしたら釣れるのか試行錯誤しながら楽しんでいきます。

今後の目標は、船舶免許を取って、大きい船を操縦してみたいと考えています。



八雲寮 林田健太





三月二十一日、久し振りの面会日を実施することができました。朝から玄関で待ち構えたり、ソワソワと廊下を行ったり来たりしている姿、ご父兄が到着するなり玄関まで出迎える姿を見ると「嬉しさ」が伝わってきました。

居室ではおやつを食べたり談笑したりと楽しい時間を過ごし、笑い声が飛び交っていました。中には恥ずかしく、別の場所で過ごされる方もいましたが、それぞれの面会日になったのではないのでしょうか。

また、毎年三月に開催している活動発表会は展示のみとなり、習字や創作物が並ぶ中、自慢げに自分の作品を紹介している方も居られ、久しぶりに、「やっ与会えた面会日」になりました。(松尾)

# やっ与会えたね



障害者支援施設 八雲寮広報部

## 次期会長となったのは！？



令和3年度自治会選挙が開催され、昨年度の副会長からのリベンジを誓った久米一彦さんが見事トップ当選を果たされました。

2月に立候補者を公募し、6名の利用者が名乗りを上げ、選挙当日にはたすき、はちまきの出立で各候補者の所信表明演説と後援者による立会応援演説が2～3分の時間制限の中で行われました。

各々の熱い思いを力説する候補者、候補者への清き一票を訴える後援者の声が響き渡り、その後厳正に投票が行われました。次回自治会活動の際に任命式が行われる予定です。(福田)

### 習字クラブ作品



### 工芸班季節の作品

#### 今後の行事

- ・誕生日会
- ・帰省(予定)
- ・道路アダプト事業
- ・収穫祭



## 変わらぬ笑顔でまた！

3月1日、岡部翔太さんの卒寮式が行われました。翔太さんは大村市出身で、母方の実家が加津佐にあることが縁で、八雲寮に入所。八雲寮では活気溢れる笑顔で周囲を明るくしてくれるムードメーカー的存在でした。

今回、八雲寮を卒寮して千代垣荘に移行するにあたり、卒寮式では翔太さんとの別れに涙ぐむ利用者の方もおり、皆さんが盛大な拍手やハグで力強く送り出していました。

翔太さん自身も皆さんに自ら「ありがとうございました！」と言い、八雲寮を後にしていました。(吉田)



### 新メンバー紹介



山下優大さん(18)

四月一日より、八雲寮では若くパワフルな仲間が増えました。新しい生活を始める彼に、いくつか質問をしてみました。

- Q. 八雲寮での生活はどうですか？  
A. 楽しく過ごしています。
- Q. 好きなことや趣味はありますか？  
A. スポーツが好きで、居室ではよく筋トレをしています。
- Q. 日中利用しているワークに対して、意気込みを聞かせてください。  
A. きついで訓練のためだし、良い企業に行けるように頑張ります！
- Q. 八雲寮の皆さんに何か一言お願いします。  
A. みなさんよろしくお願いします。

(取材：敬一)

## がんばらば宣言

### 森塚 統さん

令和2年4月に入所してから1年が経ちました。他の利用者さんや職員に負けず、パワフルで元気な森塚さん。



できることも少しずつ増えてきました。今後も色々なことに挑戦し、頑張ってください！

## じゃがいも雑感！

八雲寮が権田の里へ移転して二十五年が経ちました。もう二十五年…。それに伴い利用者の方々は年齢が増えています。生まれ育った場所よりも、半数の方はここ八雲寮が自分の居場所になっているに違いありません。そうして遠い故郷を思いながらここで触れ合い、権田の里で支えあいや助け合いができたことで仲間となり、家族となつていきます。そんな絆は誰よりも大きいと思います。その中で私たちが利用者の方々に携わることが「仕合わせ」と感じます。

保護者やの方々の思いを受けながら利用者の方と共に過ごして「しあわせ」な時間をつくっていく新たな令和三年度になりたいと思います。(井村)



# デイ雲

4月号 No.201



平成八年に六名の利用者からスタートしたデイ雲は四月で二十五周年を迎えた。

## 事業所設立二十五周年を迎えて

デイ雲は八雲寮の老朽移転改築に伴い一時、社会福祉法人は悪、将来を見通して併設した全国でも開拓的な日中活動支援施設だった。九州地区では初、全国で六番目の開設と記憶している。この種の施設は、急激に拡大した背景がある。その効果は、地域在宅者に光明を与えたと言っても過言ではない。

その後、制度は充実したが、一方では、放課後等デイサービス事業に社会福祉法人以外の事業所が参入して、問題を起こしている事例が社会問題になっているのも事実である。その実体が令和三年三月十四日「朝日新聞」の社会面、六段記事で掲載された。タイトルは「放課後デイ相次ぐ行政処分 企業多く参入給付金不正増」報酬見直し「質低下に懸念」である。

施設長 志賀 俊紀

## 第16回デイ雲活動発表会

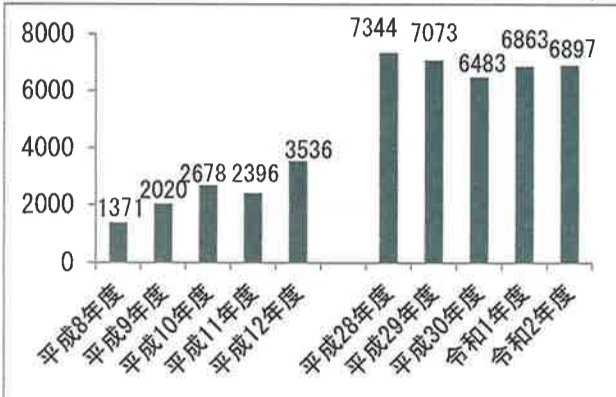
二月二十七日、デイ雲活動発表会が開催されました。今回は外部団体については、事前に収録した映像での出演となりました。

利用者の皆さんは例年通りヘルマンハーブやハンドベル、トーンチャイムの演奏を行い、フランダースの披露、ペープサート(紙人形劇)の出演と朗読を行いました。

無観客での開催でしたが例年とは違った形式での発表会となりました。こともあり、



八雲寮の建物内で活動を行っていた頃の様子(平成16年)。現在の建物は平成22年完成



開設五年間と直近五年間の年間利用者延人数推移(生活介護)



看護師 吉田久子さん

「利用者の皆さんが楽しく健康に過ごせるように支援にあたります」



児童指導員 中村敬子さん

「子供たちに楽しんでもらえるよう頑張ります」

新規採用職員の紹介です



焼きたてのお好み焼きと焼きそばを食べてデザートにケーキをいただきとても満足されており、1年間の終わりに楽しく活動することができました。(森)

## 雲と虹

昨年一年間は新型コロナウイルス感染症予防で法人行事をはじめ事業所内の活動も自粛をしてお過ごしのこととなった。半年経つ頃には「旅行はいつ行くか?」「温泉に行きたか?」など利用者さんの要望が聞かれるようになった。「そうですね」「来年は行きましょうね」としか返事が出来なかった。周りが発症していかないから「まっいいか」と考えるのか「万が一感染したら・・・」と危機感を持つのか?「そんな中でアイデアを」とアドバイスをせめて出かけた気分の「東望」での活動だった。今年以前のようにはいかないまでも、それでも「デイ雲は楽しい」「デイ雲に行きたい」と言っていただけのように知恵とアイデアを生かし、全職員で協力して支援にあたりたいと思っている。(山本)

## 春の行事予定

- ・遠足
- ・レクリエーション
- ・菖蒲見学

※状況により延期・中止になる場合があります。



# 悠炉里

## 出会いと別れ 新年度の取り組み

共同生活援助事業所

(介護サービス包括型)

悠炉里広報誌



### 4月号

自立へ向けてはじめての一步

施設長 志賀常盤

悠炉里は住まいを提供するだけではなく、日中活動の支援として一般就労者に対し、就労先へ訪問したり連絡調整を行う支援を行っています。

一般就労者だけで構成しているホームがあり、今年度より食事提供方法を施設提供ではなく、宅食サービスに切り替え、一人暮らしを想定した食事作り体制を取り入れました。地域移行し自立した生活をより具体的に経験できるようにと考えての取り組みですが、なかなか慣れないところがあり、不具合も感じられます。

しかしながら、何事もすべてが順風満帆ではなく、試行錯誤を繰り返しながら形は整っていくものと思います。新しい取り組みへの不安はありますが、どんな形になるのかとしても楽しみです。



自立へ向けて一歩ずつ！

## 自治会役員選挙実施！

令和3、4年度自治会役員選挙が行われた。利用者47名の投票により会長松尾一則さん、副会長 木場田学さん、書記 金松奈津子さん、会計 久家慎悟さんが選ばれた。選挙結果に驚き、役員を託された思いから緊張もあるが、皆の中心となり持ち前の行動力で張り切って進むことだろう。皆さん頑張ってください。(吉田)

## 勤続年数三十年九か月

グループホーム悠炉里の立上げメンバーであり、悠炉里創業の礎を築くことにも尽力された一人です。いつもかわいらしい笑顔としっかりとした支援をされるイシエさんは、他の職員から尊敬され、目標とされています。自らの目標年齢までやり遂げられたイシエさん、今後はご主人と念願だった旅行を楽しまれることでしょう。(荒木)



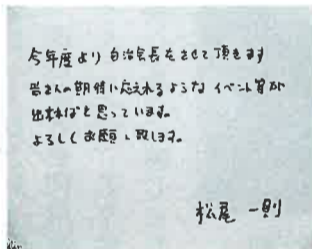
おつかれさまでした！

## より良い生活に向けて！

3月下旬、新生活に向けて引っ越し作業が行われた。地域移行訓練の為、又は常時職員が配置されている等、利用者さんのニーズに合わせホーム編成を行っているが、相手に説明を行い納得して頂くことで、より良い生活が送れると信じ支援を続けていきます。(松本)



自治会長より挨拶



## スポットライト



70歳になるまでワークネットやはたで頑張っていた酒井泉さん。4月からデイ雲を利用しています！上村さん達と出勤することを楽しみにしていることを語ってくれています。趣味はラジオで野球の実況中継を聞くことです。皆さん、よろしくお願いします。(菅原)

## ~New Face~



4月よりお世話になります池田香菜です。がんばります。よろしくお祈りします。



4月から悠炉里でお世話になります大平裕也です。体験利用を通し悠炉里で生活をしていました。仕事と生活の両立を頑張ります。

## 入居許可式

入居許可式を執り行った。町内には十棟のグループホームを構築しているが、今年度は各ホームで許可証の授与を行う。(井上)



加津佐



八雲寮より異動してきました安藤友美です。よろしくお願いします。



デイ雲より異動してきました生川順一です。日中活動から、生活支援へのサポートに変わりますが、頑張っていきます。よろしくお願いします。

## 今後の行事予定

- ・GW帰省
- ・ホーム活動

今年度も新たにスタートし、今年度は年間行事に一つもグループ活動の予定を計画することができませんでした。私たち職員は基より利用者さんが一番楽しみにしていた行事だけに、どう代わりになる行事を計画出来るかが職員の力の見せどころです。ホーム活動の充実という事で新たな楽しみを見出せるように力を出し合っていきたいです。(大場)



# 我ち愛

障害福祉サービス  
ワークネットやはた  
広報誌 4月号

## これから進む未来へ...



例年より早く開花した桜は、まるで卒業生を送り出すかのように満開の時期を迎えました。今年も四名の卒業生を送り出すことができ、それぞれの道に向かって歩き出されます。

これから、いろんな壁にぶつかることもあるかと思いますが、その時は、やはた共育大学で学んだ経験を思い出し、我々もサポートしながら一緒に乗り越えていきたいと思います。(山田)

## 良い雰囲気づくりのために...

先日、紙加工班で利用者会議を実施したなかで以前、班として決めていたルールも時間が経つと利用者の負担になってしまっている部分もありました。話し合いをしていながら負担を軽減し、班全体で協力することで利用しやすい雰囲気を作っていけたらと思います。



また、イベントや行事についても、利用者の希望や意見を少しでも多く取り入れ、支援する側が意見などを引き出しながら利用者の選択肢が広がるような取り組みをしていきたいです。(草村)

## ワークネットやはた この人!

名前：鹿田 安子さん

Q) 休日は何をしていますか?

「休みの日は散歩をしています」

Q) 何をしている時が楽しいですか?

「仕事をしている時が楽しいです」

Q) 作業で大変なことは何ですか?

「たたみ作業が一番大変です」

●喜寿を迎えられても現役で被服班の一員とて、毎日作業をされている鹿田さん!!

これからも体に気を付けながら、製品のたたみ作業など頑張ってください。



## 散歩道

さまざまな施設課題の解決には「みんなが何ができるか」を考えて、取り組む必要があります。慢性的な人手不足に現場は悩まされていますが、それを理由にサービスの質を落とすことは許されません。環境や掛け持ちの仕事が見直された結果、職場の雰囲気や生産効率が向上したと事例があるように、人手不足の解消だけでなく、不適切な支援を起ささない為にも、環境や仕事量を改善して、より良い施設運営に努めていきたいと思います。(喜一)



旅立ちに向けての記念撮影♪

## 卒業生からのコメント



いろいろな仕事ができるようになりたいです

池田香葉

早く仕事になれるようにがんばりたいです。

吉田大生

成人二名、還暦一名、古希二名の方の年祝いを実施しました。成人を迎えられた坂木さん・吉田さんは、これらの目標などを皆さんの前で若さいっぱいに堂々と話されました。今回、進行などを利用者の方に行ってもらったことで、より全体で祝うことが出来たように感じました。

## 祝 一緒に取り組んでいく



今後は、企画から利用者・職員で一緒に考えながら、皆で行事に取り組みたいです。(山田)

## 満開の桜に笑顔満開

3月26日、毎年恒例の花見見学を行いました。今年は事業所全体での花見は控え、班別に分かれての活動となりました。被服班では、利用者の方と話し合い、雲仙市小浜町「とけん山」へと出かけました。



当日は、天候も良く絶好のお花見日和であり、満開の桜を見た後の食事はとても気分の良いものであり、これからの仕事への意気込みも一段と高まったように感じました。(白石)



### 新たな心持で

当事業所は大きな職員異動はなく、管理者が新所長に就任して、新年度が始まりました。年度初日の4月1日は毎年職員の申し合わせを行います。新所長が“優秀なのに評価されない人”という話をされ、「他人への想像力」「自責で考える」「変化に柔軟に対応する」ことが大切であるということでした。

仕事ができる職員というのは、実務能力が高いことだけを意味するのではなく、もっと本質的な中身が重要だということだと思います。例えば、トイレ掃除の一つでも仕事を選ぶことなく、職務を全うします。

(恵理)



去年はできなかった入学や入社式が、令和三年度の式より一日早く開催され、当事者の喜びが伝わり、嬉しい気持ちになりました。しかし、「感染第四波？」の厳しい状況は、今年も少し不安なスタートです。

さて、当事業所は以前より、ボランティアや高校生以上のアルバイトを積極的に受け入れています。彼らの存在は、恋する気持ちや親の気持ち、祖父母の気持ちなどを疑似体験させて、通所する人々のモチベーションを上げる効果があります。最年長者の諸隈良英さんの笑顔は、若い力が若男女の活きる源となる事を証明しています。

実は、わたくしこと令和三年四月一日付をもち、本事業所の所長に就任いたしました。若くはない新米に、尚一層ご指導の程、お願い致します。(由)

新築の飛雲荘に転居して三月月が過ぎ、入居者も住居を大切にして生活しています。飛雲荘は、八雲寮管轄のグループホームとして事業を開始しました。加津佐町以外での施設運営は初めての取り組みで、少しずつ利用者を増やして、今では十五名の入居者が暮らしています。それぞれ玄関にはホーム名を彫った表札があります。城雲荘は、柿の木が始めて管轄したホームなので柿の実を描き、螢雲荘は蛍の灯を描いています。飛雲荘は八つの雲と柿の実を描き、それぞれのホームの成り立ちや名の由来がわかるように、職員が彫ったほかにわな



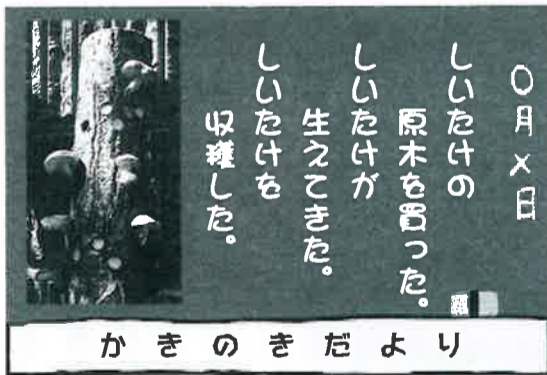
松尾久美子 世話人



大島隼人 さん

これからよろしくお願いします!

### ようこそ柿の木へ☆



「年長のあの人が退職しないと○○できない」「女より、男を上司に座らせたい」などと言う輩がいるとかいないとか。同じ組織で老若を対立させ、男女を不平等にする意義を教えることが、皆歳を重ねるのに。今年度、私を含め五名の女性が昇進し新役に就任した。新風が活源となる事を見守って欲しいと、お願いして「言の葉」を後進に託そう。(由)

平素から学生が実習に来てくれる施設だったら、違っていたかもしれないが、生活介護と放デイでは、学生実習は履修単位にならないだろうし、大学もない。だから若い人が皆大好きだ。若いが正で、「若い」が悪でもない。「男」が上でもなく、「女」が下でもない。人として生きる上で、対立する事に意味はない。それでも、新しい風が入ると人は華やき、活気が出るの、やっぱり老若男女、色々いるから面白いという事なのではないかと思う。若く人の意見を吸い上げないとダメだとか、「

# こし水は、こし水

## 若い力の持つ「活力」

ちから

デイ雲柿の木 所長 原口由紀子

去年はできなかった入学や入社式が、令和三年度の式より一日早く開催され、当事者の喜びが伝わり、嬉しい気持ちになりました。しかし、「感染第四波？」の厳しい状況は、今年も少し不安なスタートです。

約もありませんが、今後感染防止に努め「活力」となる若い力の受け入れができる事を願っています。

新築の飛雲荘に転居して三月月が過ぎ、入居者も住居を大切にして生活しています。飛雲荘は、八雲寮管轄のグループホームとして事業を開始しました。加津佐町以外での施設運営は初めての取り組みで、少しずつ利用者を増やして、今では十五名の入居者が暮らしています。それぞれ玄関にはホーム名を彫った表札があります。城雲荘は、柿の木が始めて管轄したホームなので柿の実を描き、螢雲荘は蛍の灯を描いています。飛雲荘は八つの雲と柿の実を描き、それぞれのホームの成り立ちや名の由来がわかるように、職員が彫ったほかにわな



### 空前のブーム!?

城川宏揮くん

は、三輪車が大好き。

でも、身体の成長とともに、そのサイズが合わなくなってきました。

そこで、職員の家で使わなくなった18と20インチの自転車2台を譲って頂くことになりました。初めは、自転車を押していましたが、2日もすると自転車にまたがり、今ではブレーキも使いこなせます。嫌がっていたヘルメットもアンパンマンに変えると被れる様になりました。

建物の端から端を2台の自転車が走り回る自転車ブームは、こども達の挑戦と成功の喜び、そして脚力とバランス力を養う事でしょう。

城川さんの免許証は、18インチ限定ですが、池田さんは、20インチまで乗れる限定解除で、永友さんが、免許証の確認をして安全運転に努めています。

(恵理)



絵:石川智広さん作



### 言の葉

- 5月の行事
- 5日 菖蒲湯
  - 12日 河川アダプト 弁当の日
  - 13日 誕生会
  - 19日 体力測定
  - 22日 バザー& ホーム別活動※
- ※印は、参加費あり



### ほかにわないオンリーワンのドローンで空中散歩



**ほかにわないオンリーワンの輝を**  
 令和三年度のキーワードは「輝」です。利用者も輝き、職員も輝き、地域も輝く自己研鑽に邁進します。さて、ほかにわの上空からドローンで散歩してみました。近隣する権田公園から、天草灘、ほかにわ共和国を一望すると、海は輝き、桜と木々の若芽も「輝いて」いました。

今年の開花は十日ばかり早かったようです。桜も三十年近くの木々ですから、峠からの景観は素晴らしいものです。思い起こせば約四十年前、権田に公園の計画が発表



Tosiki

されました。それによれば、フランスリビエラに似ているという九州大学の先生の推薦の言葉、私はハワイのダイアモンドヘッドに似ていると思い、私は、ほかにわ文化共和国構想を発表しました。これが、「九州電力地域文化賞」に入選して、地域社会との共生社会の端緒と評価されたのが四十年前の事でした。夢いっばいのあの頃を思い出し、心は弾けます。令和三年を起点に、中長期計画を策定し、未来志向で頑張ります。

としき

### 杜の樹木には魂がある 魂を取り込んで

ほかにわ八幡神社に石造の一の鳥居が建立されました。鳥居をくぐると御霊の安らぐ「メモリアル奥津城」と社の一部に寄贈された古風な水盤「手水舎」があります。神社参拝の作法で大切なのは身を清よめることです。



屋根の中に種目の若葉が

を清よめることです。神社参拝の作法で大切なのは身を清よめることです。

### 西谷三四郎(1914-94)の精神薄弱児研究

わが国の精神薄弱教育の歴史は、戦前と戦後に大きく分けられるが、昨年11月号で紹介した杉田直樹・杉田裕の親子のDNAと、米国ヴァインランドに由縁を持つDNAに鍵がある。そのことは、西谷の著書『世界の精神薄弱』(1964)で確認できる。わが国の精神薄弱施設のモデルは、ヴァインランドに起源があると言えるが、その由縁は川田貞次郎が、1917年から、1年間のここで精薄児教育をしたことに始まると西谷は「…略…これよりもっとヴァインランドの名前を私に印象づけたのは、藤倉学園の川田先生であった。」(同書,p.59)と述べている。そして西谷は、ヴァインランドの鳥瞰図(同書,p.68-69)で、パール・バックの娘キャロルの生活しているコテージを特定している。つまり、福祉文化史的視点で見ると、西谷の記述は説得力がある。何故ならば、わが国の精神薄弱関係で教育・行政・啓発事業に影響力があった三木安正のヴァインランド視察を示唆している。さらに西谷は、ヴァインランドのファイルの表紙のパール・バックの言葉を、

「精神薄弱児を受け入れ、研究するには、われわれと人間たらしめ、人間的なものなどをもっているために役立と考えられる。私は、常にこのことを言いたいし、また、弱いものをどう取り扱うという事で、文明ははかられると、できるだけ、度々いいたい。こうした精薄児に最も弱い、最も純粋なものである。われわれは、こうした子どもを無視することはできないのである。」(同書,p.79)と邦訳している。そして西谷は東京教育大学特殊教育教授で、津曲裕次先生は助教授でアメリカに留学され、精神薄弱関係の歴史研究をされ、その研究室の助手池田由紀子は、アメリカに留学し、WISC を研究し、現在、池田はわが国のダウン症研究の重鎮と称されている。



懐かしい朱筆の励ましを感じて

新年になった一月、筆を執って苦戦している利用者に丁寧

に教授されている指導員を見た。その人伊崎さんは、昨年まで小学校の教頭先生でした。子供の心理を讀んで抜群の包容力である。しかも、楽しい学習を進められていた。  
 私も何十年ぶりで、挑戦しました。すると、私の「労作?老作?」に朱筆を入れていただいた。昔、そろばん塾やお習字教室で習った記憶は、今でも蘇りますが、心地よく時は流れました。そして、腕白時代が脳裏を巡る。縁あって伊崎先生との邂逅、之から先、子どもたちや諸君が、お習字を一つの題材にして、広がっていくことを期待したい。

### 作業が終わって清々しい顔



事務局取材より転載(抜粋)  
 共汗共育(障害の有無に関係なく人として共に汗を流し共に育つ)を基本方針として、活動しています。社会貢献として、島原でアダプト制度が始まった当初から国道二五二一号の清掃活動を続けており、さらに平成二十四年からは地域の農業用水の取水源として重要な蒲河川において河川アダプトとして清掃活動を行っています。道守活動は、当施設利用者にとって、地域に貢献でき、地域とつながりをもつことのできて嬉しく、地域の役に立っているという事が自信に繋がるので、今後も続けていければと考えています。と取材された担当のお話でした。

「道守長崎会議」の広報誌に道守と風景街道との連携のオナーに「ほかにわ共和国」を紹介。